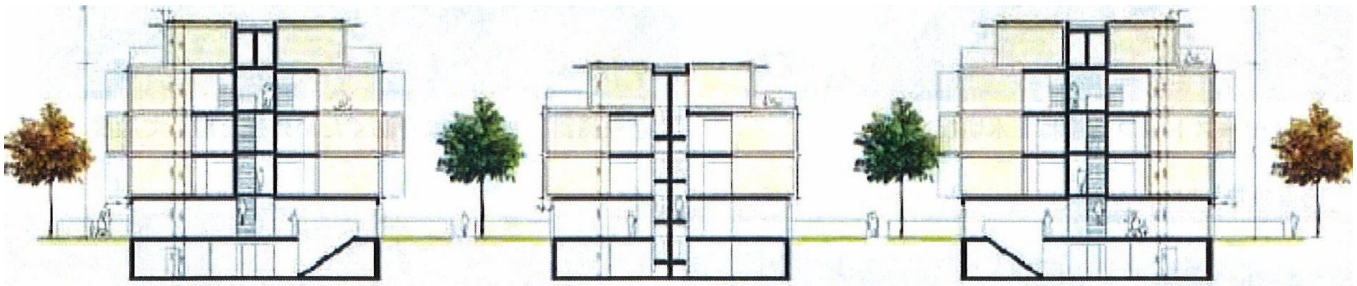
おもしろ建築物紹介 その 14　ミュールベック集合住宅

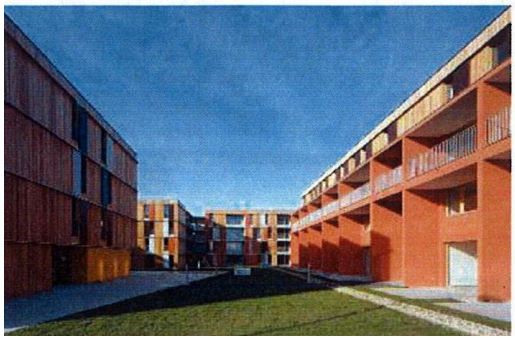
1974 年卒 飯山道久

　オーストリア・ウィーン、ミュールベックの公営集合住宅です。3ブロックに分けて設計コンペで採択された木材利用建築物（混構造）が数棟ずつ建っています。ＣＬＴ（直交集成板）を用いる建築はＲＣ造に比べて 1 割前後高いとのことでしたが、再生可能な材料利用や CO2 排出量抑制等の為に進められている中高層建築物木造化の一例です。年間暖房エネルギー負荷等を規定したパッシブハウス基準を達成しています（冷房は規定も設置もなし）。3ブロックとも外装に無塗装木材が用いられているのを見て、日本でもある時期までは外装に無塗装木材が多用されていたことを思い出させられました。

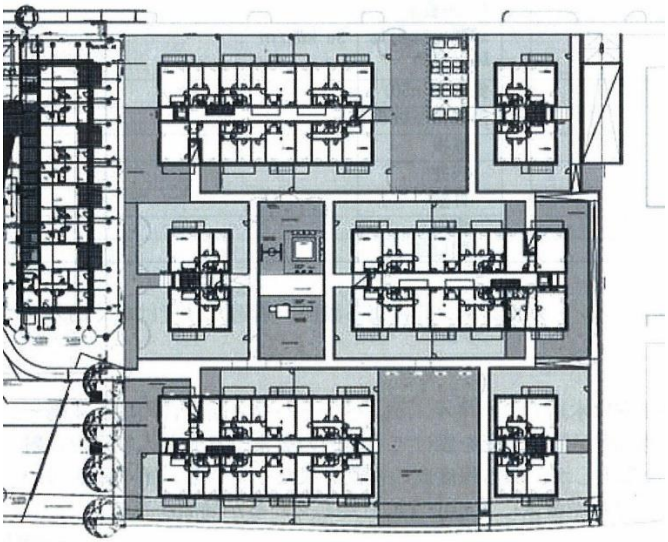
　Ａブロックは、2006 年の完工で、１階と階段室コアがＲＣ造、共用廊下はＳ造、他はＣＬＴを用いた木造、地下１階、地上４・５階建ての 3 棟 84 戸です。外装の無塗装木材は築７年で写真のように変色していましたが、当初からそれを想定したデザインで、スライド雨戸（日除け）等に鮮やかな原色の塗装がされていました。



↑断面図　↓中庭　↓ファサード

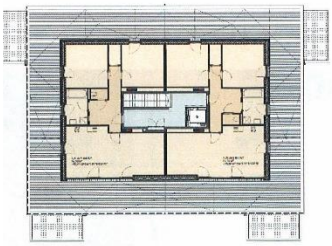


Ｂブロックは、2004 年春コンペ・着工 2005 年 11 月・完工 2007 年で、１階と階段室コアがＲＣ造、他はＣＬＴを用いた木造、地下１階・地上５階建ての６棟 98 戸です。こちらはバルコニー回りの内側のみ無塗装木材で、その他は耐候性のある外装材で被覆されています。完工が他のブロックより後で経過年月が少し短い為か、日射や風雨の当たり方の違いからか、無塗装木材変色の進みは遅いようでした。



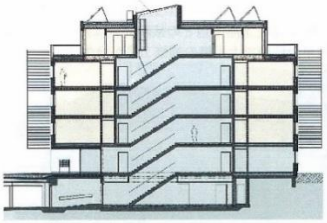
↑配置図

Ｃブロックも１階と階段室コアがＲＣ造、他はＣＬＴを用いた木造、地下１階・地上５階建ての４棟 70 戸で、完工は 2006 年、建設費 720 万ユーロとのことでした。バルコニー回りの外装は木材無塗装で、やはり見事に変色していました。バルコニーは、床や側面の壁のＣＬＴ持ち出しで支持されているようです。



↑５階（PH 階）平面図

↑２～４階平面図



↑断面図

（写真撮影日：2013.10.9）

＜google 地図参照＞　https://www.google.co.jp/maps/@48.2874453,16.3901051,207m/data=!3m1!1e3

この集合住宅は、ウィーン中心部からドナウ河を越えた郊外のフロリッツドルフにあり、「おもしろ建築物紹介　その５」でも紹介しました地下鉄Ｕ６終点 Floridsdorf 駅から北へ 3.5km、最寄りの鉄道駅 Strebersdorf からは東へ 1km 程のところです。その５の「ショッピングリゾート」へは 8km 程の距離です。ウィーンの中心部からは 10km 位ですが、すぐ近くには自然の川のようなマルヒフェルト運河が流れ、畑地も広がっています。　（2018.12.01）